

歌壇

大下一真選

特選

そそくさと前掛けをとり黙禱す八月十五日一人のテレビに

千駄木 石井 禮子

ビル解体終わり覆いが外されて見慣れぬ景色に夕日落ちゆく

向 丘 高野 伸子

広げれば花畑のような傘さして雨また楽し買い物に出る

千駄木 上杉 紀世子

入選

あてもなくワンデイパスを買い求め心浮き立つ小さな旅へ

千 石 菊地 正矩

あの坂を登れば今日も吾を待つ窓の灯りと夕げの白い

白 山 菊田 知和

はは若く胸にいだかれねむる吾セピアの写真父の遺品に

大 塚 加藤 喜雄

マンションの重き扉を開けくれる青年達は吾が孫の年

千 石 小出 風沙子

ころころと紫陽花の葉に雨滴落ち梅雨の風情はここに極まる

小日向 内野 仙也

今生では是非に会いたき友を訪い言葉にいえねど握る手かたく

西 片 松林 利枝

『鎌倉山中小庵日記』読みいそぐいそぐ理由はさらになけれど

千駄木 久保田 仁

俳壇

佐怒賀 正美 選

特選

百五歳弔鐘のごと窓打つ電

千石 菊地 正矩

遠雷やあと一幕の野外劇

春日 二村 吉光

孫の手を孫に教へる夏休み

小日向 内野 仙也

入選

炎天に搬ばれゆくやダリの皿

向丘 丸岡 正兎

梅雨寒を飛ばすかにラ・カンパネラ

小日向 花岡 敦子

踏切を駆け出す子らの夏の海

千石 竹居 陽一

光年のはなしひもどく夏の夜半

向丘 片岡 マサ

万緑の底に鎮もる芭蕉庵

千石 大石 坦

まるくあれ地球も庭のあじさいも

本郷 中澤 公

かき氷パンダ公開待つ子かな

小石川 中野 千鶴子